

「夏の風物詩」(上岡)

今年の福知山花火大会は、久しぶりに以前と同規模での開催。夜空に舞う大きな打ち上げ花火は圧巻でしたね！当日はお昼から町が賑わっていて、福知山の夏の風物詩が帰ってきたなあ〜ととても嬉しい気持ちになりました。私はキンキンに冷えたビールとおつまみを用意して、家飲みスタイルで家の窓からの花火鑑賞を楽しみましたが、贅沢なとてもいい時間でした。その一方で、最近の暑さの影響で花火大会を秋に変更するところもあるそうです。花火といえば夏！というイメージも、これから少しずつ変わっていくのでしょうか。その季節ごとの楽しみ方が増えるのもいいのかもしれませんね。

そんなとても暑い日に、涼みたくて入ったお店で飲んだマンゴーソーダがとてもおいしかったです。氷の代わりに冷凍マンゴーが入っていて、最後まで味が薄まることなく、もちろん食べてもおいしくて最高でした。

まだしばらく残暑は続きますが、この時期ならではの楽しみつつ、元気に乗り切っていきたいです。



知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識：【国税総合管理システムが刷新されます】

K S K（国税総合管理システム）とは、全国の国税局・税務署をネットワークで結び、納税者の申告・納税情報を一元管理する国税庁の基幹システムです。1995 年の導入以来、各税目の管理や税務調査など幅広い業務を



支えてきましたが、2026 年 9 月から「K S K2」へ約 25 年ぶりに全面刷新されます。開発コンセプトには、紙からデータ中心の事務処理への転換、税目データベースの統合、汎用的なオープンシステムへの移行が掲げられています。従来の縦割り管理から、K S K2 では納税者単位での横断的な一元管理に変わるため、複数税目をまたいだデータの確認や分析が迅速化します。さらに A I - O C R の活用や電子申告との連携強化に加え、政府共通ネットワーク（G S S）を介して調査先等の出先からもシステムへアクセスが可能となります。外部データ取り込みの強化も相まって、今後は法人・個人・資産課税が連携した多税目の総合調査がさらに進むとみられ、実務への影響が注目されます。

世界の偉人伝

今月の偉人：【パスツール】

ルイ・パスツールは 19 世紀フランスの細菌学者です。ジュラ地方で皮なめし職人の息子として生まれ、パリの高等師範学校を出て物理学や化学の研究者となりました。酒石酸の研究による発見で名声を上げ、微生物を研究して発酵や腐敗を解明、低温殺菌法の開発や狂犬病ワクチンの開発など、多くの業績で医学や公衆衛生、農業、食品産業に貢献しました。「幸運は準備した心に宿る」の言葉通り、気が遠くなるような地道な観察と手作業を積み重ね、重大な発見を見出し続けた人生でした。

気軽に Let's 英会話

今月のキーワード：【fine】

この 9 月から住宅街や通学路など「生活道路」の法定速度が時速 30 キロに引き下げられます。「スピード違反切符」は“speeding ticket”といいます。アメリカのドラマなどでよく出てきますが、スピード違反で止められた場合、抵抗しないという意思表示で、両手をハンドルに置いたまま警官の到着を待つようです。

“I got a speeding ticket and a \$150 fine.” は「スピード違反の切符を切られて 150 ドルの罰金だ」です。“fine”は「すばらしい」の他に「罰金」という意味もあるのです。

トピック
を採る

A cartoon illustration of a young girl with brown hair in a ponytail, wearing a pink shirt, blue pants, and a backpack. She is standing on a sidewalk outside a school building, holding a book and a bag. The school building has a blue door with a circular logo and a sign that says 'SCHOOL'. There are potted plants and a small tree in the foreground.

すべての不幸は
来來への
踏み台にすぎない

ダイコンやニンジン、キノコ類は、天日で干すと水分が抜けて保存しやすくなります。また、うま味が凝縮され、歯ごたえや香りも生とはひと味違うものに。干すことは食材を長持ちさせるだけでなく、新しいおいしさに変える昔ながらの台所の知恵ですね。

知恵得る知恵代衣

面白い心理実験があります。AとBの2つのグループを作り、Aにはまず「新しい挑戦に伴うリスク」を、次に「得られるメリット」を書き出してもらいました。Bには逆に、まず「得られるメリット」を、次に「新しい挑戦に伴うリスク」を書いてもらいました。その結果、どちらのグループも、先に書き出した項目のほうが圧倒的に多かったそうです。つまり、物事を「チャンス」と捉えるか「リスク」と恐れるかは、最初にどちらへ意識を向けたかで決まるというわけです。「危ない」と思えば脳は危険な証拠ばかりを集める。「面白そうだ」と思えば成功のヒントを探し始める。これは脳のユニークな特性です。会社の成長は、社長の「好奇心の量」に比例するのではないかと思います。好奇心とは、未知のものを面白がり、変化を歓迎するしなやかな遊び心と言い換えてもいいでしょう。AIで世の中がどんどん変化していく今の時代を生き残るには、社長自身が「面白がる力」を養うこと。「失敗したらどうしよう・・・」と身構えるより、前例や過去の常識にとらわれず「まずは実験してみよう！」とワクワクして商売をアップデートさせていくことが重要だと感じます。リスクばかりに意識が向く社長は、社員に対しても「前例はあるのか」「責任は取れるのか」とブレーキをかける言葉をよく口にします。片や、可能性に意識を向けている社長が日頃どんな言葉で社内を活気づけているかは、言わずもがなでしょう。社長の目がいつでも好奇心で輝いている。そんな社風が組織の挑戦を生み、商売を伸ばすのかもしれない。いたってシンプルな原理原則ですね。



トナリの本棚

ユーキャン絶景研究会が編集した駅から徒歩 10 分で行ける絶景をまとめた本。イチオシの季節、名所に絶品の土産などふらっと出かけてみたいくなる一冊です。



皆様のご感想をお待ちしております😊😊😊😊😊😊😊😊